



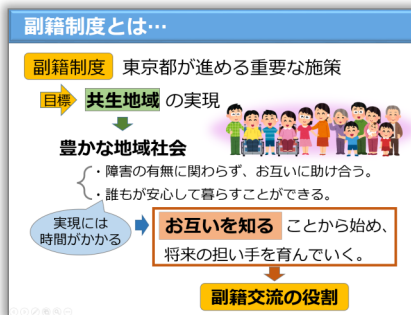
## ● 次年度の「副籍交流」について

いよいよ2学期も終わり、次年度の副籍交流について希望をおたずねする時期となりました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、直接的な交流を希望されていた方についても、間接的な交流に変更しての実施となりました。現在も感染症拡大の状況が変わらず、終息の見通しが立っていないことから、次年度につきましては全員が「間接交流」での交流開始となる形で計画しております。

今年度同様、希望される方には、お子さんの御家庭での様子を基にお作りいただく「個別の通信」を交流校に送付する形を取らせていただきます。また、「個別の通信」を送付する児童・生徒につきましては、1回のみ、担任により学校の様子を紹介する「個別の通信」を作成・送付いたします。詳細は別途配布する「交流希望調査」に関する文書及びTeamsで公開する関連動画を御覧ください。

※「個別の通信」の例として、「冬休みのようす」を伝える通信のテンプレートをホームページにアップします。参考にしてください。

希望調査票の  
提出は、小1～中2の  
全員が対象です。



「副籍を知る会」の代わりとして、副籍について説明する動画を配信します。



ホームページに「個別の通信」のサンプル（ひな形）を掲載します。

## ● 「特別支援学級の専門性向上事業」成果報告

昨年度、八王子特別支援学校と八王子市教育委員会が連携して実施した「特別支援学級の専門性向上事業」についてまとめた成果報告書が、市内小・中学校に配布されます。八王子市立第三中学校（現・いずみの森義務教育学校後期課程）と取り組んできた内容について、簡単に報告いたします。

### ★「特別支援学級の専門性向上事業」とは

本事業は、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第一次実施計画」を受け、「区市町村教育委員会の方針の下、都立特別支援学校のセンター的機能により、区市町村の特別支援学級を計画的・継続的に支援し、特別支援学級の専門性向上に資するものです。八王子市教育委員会の方針の下、具体的な内容を協議し、支援に取り組みました。

本事業の成果は、市内全ての学校で共有することが求められるため、どの学校にも共通すると思われる課題を明確にし、改善することとしました。その結果、まずは社会科の授業を「より分かりやすく」改善することに取り組みました。

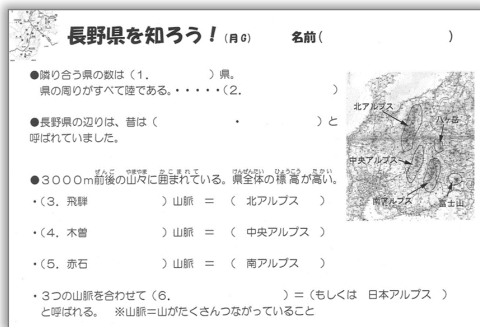
### (例1) 学習の前提となる基本的な用語の確認

授業の中で長野県が「長野盆地」に位置することを学習するにあたり、生徒が「そもそも盆地」の意味を理解しているのか? という、学習の「前提」となるポイントを丁寧に教えていけるように、スライド教材にしました。



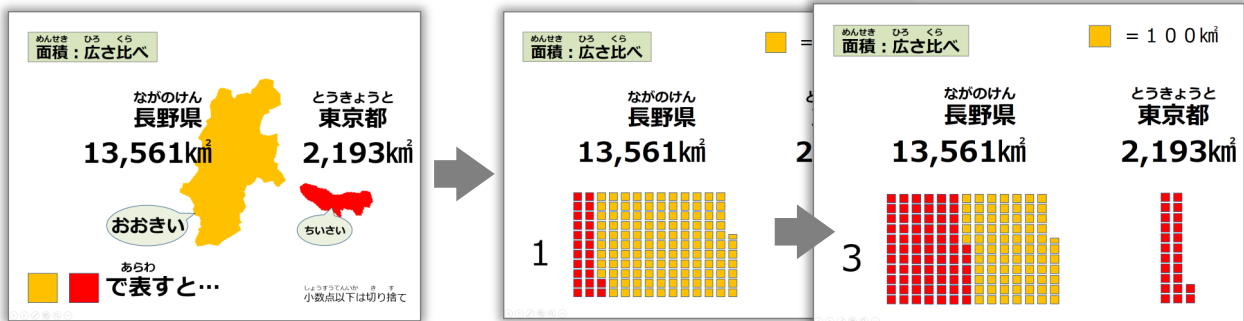
### (例2) プリント教材を補足し、学習しやすくする教材の作成

白黒のプリント教材だけでは理解しにくい点を、スライドで色分けして分かりやすく説明しました。スライドの内容を可能な限り、プリント教材と対応させ、どこに何を記入すれば良いかが明確になるように配慮しました。



### (例3) 数字で提示される資料を視覚化し、直感的な理解を促す教材の作成

長野県と東京都の面積や人口を比較する際、一定の広さ、人数を■として表現（例：10万人を■とすると30万人は■■■）し、何倍にあたるかがアニメーションで分かるような視覚教材を作成しました。



そのほか、統計資料を調べる際の負担を軽減するために、必要な部分だけをコピーして提示するなどの支援方法などを助言するなどしました。

こうした視覚教材は作成に労力が必要であるというデメリットはありますが、うまく活用すれば生徒の興味・関心を引きだし、学習内容の理解を促す効果は大きく、一度作成すれば次年度以降も活用できるなどのメリットがあります。従って、それぞれの学校で作成された視覚教材が、学校間の枠組みを超えて一層手軽に共有・活用できるよう、改善していくことが求められます。

本事業の成果は次年度以降、他の小・中学校に対しても八王子市教育委員会により普及に向けた取り組みが行われる予定です。

#### (問合せ先)

東京都立八王子西特別支援学校  
電話 042-666-5600  
東京都八王子市東浅川町546-1

担当副校長  
特別支援教育コーディネーター

濱田 恵  
西原 英治  
溝口亜津子